

「地活協」で地域よくなるか！

旗揚げ一年、期待と不安の運営続く

「まちづくり」は地域自らの手で「」を掲げて、各小学校下で昨春いっせいに旗揚げした「地域活動協議会」（地活協）。「市政改革」の一環として、従来は各団体（地域振興会など）へ個別に下ろされていた補助金を、この新組織がまとめて受け取り、地域活動の総合的な計画を立てた上で、事業（避難訓練など）ごとに振り分けるという運営に変わったのですが、一年を経てどうなったのか。最高決議機関である運営委員会を通して見てみました。

理解これから、補助金やりくり、煩雑実務に嘆きも

港区では十一小学校下の今年度第一回の運営委員会が四く五月に順次開催され、昨年度の活動を振り返り、新年度の予算や事業計画が議論・

決定されました。全体としてこの新組織への理解や慣れが多少は進んだようでしたが、その一方で、①仕組みの分かりにくさへの嘆き②地域

による意欲格差③一般住民への理解不浸透④煩雑実務への嘆き⑤補助金削減への不安⑥コミュニケーションビジネス地域住民がビジネス手法

で行なつ事業への戸惑いの運営順序への疑問
—など、気がかりな現象も依然見られました。

《弁天校下》

このうち弁天地域活動協議会は五月二十七日
夜に今年度最初の運営委員会を開催。構成団体



→一年間の活動を踏まえて運営に独自の工夫が
加えられた弁天地域活動協議会の運営委員会Ⅱ五月二
十七日夜 弁天会館老人憩の家で

である地域振興町会、子ども会、保護司会、老
人会など各団体の役員級八十数人が出席。上田
哲大会長を議長に、議事が進行了ました。

◆昨年度の活動に四三六万円使った

まず、昨年度の活動内容と決算内容について

①区役所から「活動費補助金 約一七八万円が
支給された②青少年部会は「はぐみネットワ
ーク」など、総務・広報部会は「みんなで歌お
う十周年記念コンサート事業」など、防犯・防
災部会は「地域避難訓練」など、地域・福祉部
会は「夏休みフジオ体操」などの事業を行ない、
合わせて約四三六万円使った③足りない分（約
一五八万円）は参加費徴収など独自に約二六六
万円集めるなどして補った（約八万円の黒字）
④この他に活動全体を統括・調整するための「運
営費補助金」として約五三万円が区役所から支
給された—などが報告されました。

この中では、「初めての経験ゆえ一年間手さぐ
りで活動してきた」「活動費補助金で足りない分
は運営費補助金を回すなどしてやりくりした」
—などの発言が注目されました。

◆今年度の活動に四〇八万円を予定

「弁天地域活動協議会の運営委員会であいさつする田端
区長」と、議事を進行する上田会長①



次に今年度の活動計画と予算内容について

①区役所から「活動費補助金」約五二万円が
支給される②青少年部会は「校庭キャンプ事業」
など、総務・広報部会は「広報事業」など、防
犯・防災部会は「弁天地域歳末警戒」など、地
域・福祉部会は「弁天地域敬老大会」などの事
業を行ない、合わせて約四〇八万円使う③足り
ない分（約一五七万円）は参加費徴収など独自
に約一五九万円集めるなどして補つ④この他に
活動全体を統括・調整するための「運営費補助
金」として約五〇万円が区役所から支給される
—などが提案されました。

この中では、「大変な苦労をして予算を立てた

が、去年より補助金は減っている」「ボランティア活動にもかかわらず材料費負担の必要があることや、苦勞して準備する割に利用者のかたよりや不満が見られるなどの理由で、今年は高齢者食事サービス事業をしないことにした」「実際には予算は「月の時点で区役所に承認されているので、この場では形だけの提案となる」」などの発言が注目されました。

◆今年度運営委員・委員八十八人を提案

次に、今年度の運営委員として、①防犯・防災部会十一人②青少年部会十四人③総務・広報部会十人④地域・福祉部会十人⑤全部会に参加できる委員三十八人などの計八十八人が提案されました。

◆部会のスリム化など提案

次に、一年間の活動から導き出した運営の在り方として、①実務担当者の負担を減らすため各事業が終われば速やかに総括・決算をしよう②各部会に共通の事業は部会にこだわらず全体で進めよう③実務上の無駄を省くため全体の構成をスリムにしよう④そのため各部会には指導部と運営委員だけで構成しよう⑤その他の委員は

部会にこだわらず各事業に協力しよう⑥ホームページを活用しよう⑦そのため各部会のニュースを速やかに担当者へ届けようなどが提案されました。

質疑応答の後、これらの報告・提案が参加者の拍手で承認され、運営委員会は終了しました。

◆「実務増えた」「工夫は良かった」

終了後、あま運営委員は「二年間、無我夢中でやってきましたが、所属団体の実務に地活協の実務が加わり、仕事や家事のあとで夜遅くまで机に向かう毎口です。そんな苦勞を少しでも減らそうと、今年は各部会に属さない委員をつくるなど、運営に工夫が加えられたのは良かったと思います」と話していました。

また別の運営委員は「実務上の負担が格段に増えた分、地域活動が活発になっているかという点、そこでもありません。地活協のあり方そのものが問われているように思います」と話していました。

＜八幡屋校へ＞

一方、八幡屋地域活動協議会は五月三十一日夜、今年度最初の運営委員会を開催。構成団体

である地域振興町会、子ども会など各地域団体から十三人が出席（委任状あり）。辻精（せいじ）会長を議長に議事が進行しました。

◆昨年度の活動に＝九万円使った

まず、昨年度の活動内容や決算内容について、



→一年間の活動を通じて実務への慣れが確認され、改善も図られた八幡屋地活協運営委員会
〓五月三十一日夜、八幡屋会館老人憩の家で

①区役所から「活動費補助金」約二二万田が支給された②まちづくり・防犯部会は「八幡屋地域盆踊り大会」など、地域福祉部会は「ふれあい喫茶事業」など、総務・広報部会は「生涯学習ルーム事業」など、青少年・子ども部会は「キャンプ大会」などの事業を行ない、合わせて約二九万田使った③足りない分(約一八万田)は参加費徴収など独自に約六一万田集めるなどして補った(約四二万田の黒字)④この他に活動主体を統括・調整するための「運営費補助金」として約三七万田が区役所から支給されたなどが報告され、承認されました。

◆今年度の活動に四八九万田を予定

次に、今年度の活動計画と予算内容について
①区役所から「活動費補助金」約一九万田が支給される②まちづくり・防犯部会は「ひつぱり風の夜店」など、地域福祉部会は「高齢者食事サービス事業」など、総務・広報部会は「女性学習会」など、青少年・子ども部会は「子ども地域貢献事業」などの事業を行ない、合わせて約四八九万田使った③足りない分(約一九七万田)は参加費徴収や自主事業(広報みなと配布

など独自に約一〇二万田集めるなどして補った④この他に活動主体を統括・調整するための「運営費補助金」として約五〇万田が区役所から支給されるなどが提案され、承認されました。

この中では、「去年より補助金は減っている」「予算書は(港区まちづくりセンター支部のサポートで)作成できたが、(仕事しながらの実務なので)事業計画はまだできていない。申し訳ない」「一などの発言が注目されました。

また参加の運営委員から「予算額はごいつ根拠で決められるのか」との質問があったのに対し、港区まちづくりセンター支部からは「例



→八幡屋地活協の議事を進める辻会長と、運営上の様々なアドバイスをを行った港区まちづくりセンター支部の担当者①

えば交通費の場合、バスによるか電車によるかの違いで一田単位まで(根拠を示す必要がある。大変ですが)とのアドバイスがありました。

◆今年度の役員・運営委員決まらず

次に今年度役員・運営委員の提案が予定されていましたが、前年度の一部の役員・運営委員の退任などが確認されただけで、新役員・運営委員の選出には至りませんでした。

この中では「会計は一人では厳しいので、新体制では補佐役を付けてほしい」「なかなか(運営委員の)成り手がいないので苦労する」などの発言が注目されました。

◆実務上の教訓を確認

最後に、一年間の活動から汲み出した実務上の教訓が出し合われ、とりわけ領収書・レシートの扱いについては、①必ず指定の台帳に貼る②必ず会長の割印を捺す③必ず但し書きを記入する④文字が消えないうちに「ピー」しておくなど確認されました。

◆「実務は人変」「改善を期待」

終了後、ある部会の会計を担当してきた女性は「地活協ができて、初めての経験の上に、以

前より実務が格段に多く、細くなり、大変でした。でも、一年間の経験を通じて少し慣れてきたことや、教訓をみんな確認し合ったことで、今年度からはかなり改善されると期待しています」と話していました。



「その他、他の小学校下の地活協でも今年度第一回の運営委員会が開かれ、港区の全ての地活協が五月末までに二年目のスタートを切りました。関係者への聴き取りなどを通じて気にかかったのは次の点です。

①かなりの運営委員の間で、「この新組織の仕組みなどについて「まだよく分からん」との嘆きが聞かれる。

②地域によって活動への慣れや意欲に格差がみられ、会計処理や役員選出といった基本的なところまで停滞している地域もある。

③地活協は全住民が対象であるにもかかわらず、その存在や役割についての認知や理解が地域へ浸透せず、「総会に当たる最高決議機関」とされる運営委員会さえ、その開催や内容について一般住民はほとんど知らない。

④かなりの運営委員の間で「補助金が（全体として）少なくなった」「それぞれの活動が窮屈になった」と受け止められている。

⑤その活動費の不足を補つたために「コミュニティビジネス」が奨励されているが、相互扶助を本来の在り方とする地域活動には「なじまないのでは」「なじみ感」の声も聞かれる。

⑥かなりの運営委員の間で「実務が煩雑でとても時間をとられる」「実務担当者への気の毒や」との嘆きや同情が聞かれる。

⑦かなりの運営委員の間で「予算の事実上の決定が運営委員会での協議・承認より前に区役所との間でされているが、前後が逆では」「など運営順序への疑問が聞かれる。

——これから見えてくるのは、「この新しい組織が地域住民や区役所職員の思いや要求をベースとしたものではなく、上からの都合で急に立ち上げさせられたという実情です。さらに、このような「改革」が本当に必要だったのか、「まちづくりは地域自らの手で」を表看板に掲げながら、実際には地域へ落とす金を減らして都構想やカジノ誘致や何でも民営化など財界本

位に市民の血税を流すための、また金と連絡の経路を一本化する事で地域を「コントロールしやすい」するための、巧妙な手口だったのではないかと、この疑惑を抱かせられるところです。とはいえ他区の模範ともされる活動水準を保つ港区の「地活協」。田端区長をはじめとする区役所職員やアドバイザー（港区まちづくりセンター支部）による丁寧で献身的なサポートには是非や賛否を越えて心からの敬意を表すると共に、今後、今あげたような懸念・疑惑を払拭し克服する方向で、区民との協働を深められたことを切に期待するものです。

駐車場

月18,900円



- ★24時間入出庫可
- ★屋内につき安心
- ★敷金なしでも可
- ★車庫証明発行可

大好評
受付中

ミドルーフ車

車庫高さ1.85m

カービレッジ216

港区磯路2丁目1-4
<営業>AM8時~PM8時
☎6577-8731

④ 中央大通り
ゆめみず
大和駅
30分
みなと通り
港郵便局

⑤ 市街中
おきな
43号線
(丸糸・境川方面)

叫んでいいよー！

今月の提言者

大野 ひろ子さん(南市岡)



介護労働者の過酷な実態

制度改悪やめ、労働条件改善を

「過酷なのに低賃金」と指摘される介護職の実態。毎日新聞の記事から紹介します(見出し・要約は筆者)。

◆四〜五回の夜勤で十八万円

深夜。特別養護老人ホームに勤めて二年目

生活援助員Yさんの夜は長い。ワンフロアに約四十人が入居、大半は八十〜九十歳代、七割は認知症。月四〜五回の夜勤では二人で一晩に四回の巡回、おむつ換え、トイレ介助、体位変換をやる。消灯後も徘徊する人、繰り返し呼び出しボタンを押す人…。ひと息つけるのは午後十一時の食事と「時間の仮眠だけ」。

「朝方トイレに行きたくなりそう。でも、呼ばないようにする」。そつ気遣う女性入居者。勤務時間は午後五時前から翌朝十時前。が、実際は書類記入やシーツ交換で朝食にありつけたのは昼近く。正規職で介護福祉士の資格を持つが、月給は手取りで約十八万円。それでも「恵まれてい」と感じる。

◆家族を養えない！

「家族を養えない」と「寿退社」する仲間を大勢見送ってきた、この道七年目の三十代男性介護福祉士。自身の手取りはやっと月約十三万円に。同業の妻は育児休業中。産まれた子の保育所を確保できるか、不安でならない。

◆入居者の家族が署名運動

金沢市郊外の特養。入居する母の昼食介助に石川県野々市から通う女性は介護職員の疲弊を

知り、入居者の家族と職員の処遇改善を求める署名に取り組むようになった。二〇〇六年入居当初からの顔なじみの職員は三人に一人ほど、慣れた頃にはいなくなる。女性は訴える。「親の面倒をみるかのようにしてくれた職員が、どんどん辞めている。専門職にふさわしい給料が必要だ」。

◆数字が物語る過酷な

以上の実態を数字で裏付けるのが各種の調査です。そのうち連合のアンケート調査(昨年十月)によると、手当を除く正規職の平均賃金は二〇万七千九百五十円。厚生労働省調査の全産業平均(一九万五千〇〇円)を約九万五千円下回ります。また介護労働安全センターによると、介護職の離職率は一七・九%(二〇一〇〜二〇一二年)で全産業平均(約二・五%)を上回り、一月の有効求人倍率は全産業平均(一・〇五倍)の二倍とも書かれています(新聞報道より)。

◆労働者と利用者を犠牲に改悪

「政府も手は打ってきたが…」といいますが、介護保険法実施から三年ごとの改定では、そのつど要介護認定は厳しくなり、保険から支給さ

れる介護の範囲と給付金額も切り下げられてきました。身近な「デイサービス」での一例を挙げる
と、食事や送迎に支払われてきた保険料が今は
ゼロ、入浴加算も大幅減。〇九年から国は「処
遇改善」のために労働者の賃金に上乗せする額
を税金から事業者に交付してきましたが、一
年には介護保険からの支払いに移行、その負担
は利用者にも負わせています。つまり政府は犠
牲を労働者と利用者にながら改悪を重ね
てきたのです。

◆さらに改悪 消費税増税も

加えて今、安倍政権はさらなる大改悪案を国
会で通そうとしています。比較的動ける「要支
援」者の介護について国の関与を放棄し、市町村
任せにする。つまり自治体に力ネと意思がなけ
れば切り捨てて良い、また利用者負担を一割か
ら二割にする等々。そして介護は切り捨て
おまけに消費税増税は二〇%強押しをもちろめ、法
人には復興特別税を早々となくし、さらに法人
税減税までやるつもりです。

◆福祉に税金使えの闘いをー

また、先に見たような実態から介護離職も社

会的問題となっています。介護を担う人たちの
生活と人権が守られてこそ、介護を必要とする
人々の暮らしと尊厳も守られ、そのどちらの立
場にも全ての人が立ち得ることを考えれば、介
護労働者の労働条件改善は政府との闘い抜きに
はあり得ません。

そもそも介護保険には、利用が増えれば保険
料も利用者負担も上がるという根本的問題があ
ります。福祉に税金を使えーの闘いが今こそ必
要です。どう力を結集できるのか？ 難問です
が、避けてはならない課題です。

港合同南支会本部 ☎六五八二・四八五〇

働く仲間の相談所
倒産、解雇、
賃金不払い、
条件切下げ
など何でも
無料
困ってませんか？
港合同 (南支会本部) ☎6583-4858

被災地農民を支援します。
反原発の声をあげよう!
ご協力下さる方はご連絡下さい
三里塚産直野菜の会
磯路2-3-9 (三社神社そば) TEL.6572-0130

あれこれガイド

●真喜志好一講演会 「沖縄平和市民連絡会」世

話人で建築家の真喜志好一さんが「オキナワの
いま」反基地闘争勝利への展望をテーマに、基
地の現状と日米両政府の動向を分かりやすく語
る。音曲漫才で人気の「おしよりのマコ・ケン」は原
発事故を現地取材に基づき報告。シンガーソニ
ングライターの「バギヤン(趙博)」「はちよつ
び」は抵抗と愛の歌。その他「原発あかん」「橋
下いらん」「弾圧やめろ」などと訴える報告やア
ピールも。六月二十日(日)十五時半から十九
時頃まで浪速区民センターで。入場無料だが事
前に参加協力券(千円)購入が必要。詳細は主催
の実行委員会「コラボ玉造」(天王寺区玉造本
町八・一八 酒井ビル二〇三号室) TEL.F
AX:〇六・六七六三・〇二二一、メール:ta
mazoo@fanto.orgまで。

●緑の地球ネットワーク(GREEN) 中国山西省

大同市の黄土高原で一九九二年から緑化協力を
続ける認定特定非営利活動法人。地球環境の
ため国境を越えて力を合わせている「写真」(次
頁の上)は活動イメージ。次のような協力方法

がある。①会費になる〓年会費一万 千円②会報を購読する〓年間 千円③カンパする〓金額 自由 (税制上の優遇措置あり) ④絵はがき『黄土高原の花』を購入する〓八枚組三百円⑤ビデオ『よみがえる森』を購入する〓三十分五千円⑥古切手・書き損じはがき・外国「イン・商品券等を送る⑦ボランティアになる〓会報発送など⑧黄土高原スタディツアーに参加する〓緑化協力の成果を鑑察し、村人と交流し、失われた緑を取り戻す試みを体験。八月 十三日 (土) ～二十九日 (金)。旅行代金は一般十五万九千八百円、学生割引 三万円 (交通費・宿泊費・食費等込み)。定員三十名程度(最少催行人員十二名)。申込締切七月十日⑨DVD『黄色い大地に広がる緑く草の根環境協力の二十年』を観る〓緑化協力二十周年を記念して制作。約三十分。無料。〓ピー可〓いずれも詳細・申込等はGENの事務所(市岡 一・四一四・五階、☎六五七六・六一八一、FAX六五七六・六一八一、Email: geentree@s4.dion.ne.jp、http://homepages3.iffity.com/geentree/へ。



●日本クリクラウン協会

入院生活を送る子どもたちの病室を定期的に訪問し、遊びとユーモアを届け、子供たちの笑顔を育む道化師「クリクラウン」の活動を普及・推進する特定非営利活動法人。二〇〇五年から港区を拠点に全国で活動。二〇二二年度は三四病院を二六〇回訪問、約八千人の子供と関わった〓写真(右の下)は活動イメージ。①支援の方法〓寄付する〓会費になる〓マンスリー(ひと月単位の)サポートになる〓関連イベントに参加する〓臨床道化師フォーラム報告書を読む〓他〓いずれも詳細や申込は同協会(築港二・七・五 港振興ビル305A TEL・FAX 六五七五・五五九二 Email: info@clinicrowns.jp ホームページhttp://www.

clinicrowns.jp)へ。

●ワークみなと「東北食品市」

東日本大震災

で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(夕凪 一・六・三、☎六五七一・七五一一)。

●ムチ打ち(首・腰) 無料相談会

交通事故で

ムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。六月二十九日(日) 十時十八時に行政書士のむら事務所(築港二・七・一六〇〇)で。一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで。「どついたら正当な補償が得られるかをアドバイスします」事故後、早めの相談が良い結果につながります」(同事務所・野村光恵さん)。Eメール: info@jikkoo110-nomura.com、TEL 六五七六・六〇七六、FAX 六五七六・六〇七九。

あさやけ

「二十年以上に亘り多大な愛顧賜って参りました当店を今度閉店させて戴く事になりました。深い想い出で、皆さま方から頂戴しました有難い心の繋がりを大切に、感謝しながら余生を過ごさせて戴きます」。五月に入ってから貼る紙が道行く人の目を惹きました▼この店主(女性)は八年前、五十数年続いたサーブ業を閉じる際にも、地域への感謝を「一瞬も一生も美しく」との一語に凝縮させた美しい挨拶文を貼り出し、静かな感動を誘いましたが、今度は、併せて宮へきた小やかな販売業も畳むというので、より惜別感が大きくなったようです▼貼る紙を見て訪ねた筆者に店主曰く「特に体のどこが悪くなったからというのではなへ、お客様や取引先に迷惑をかけないうちに決めてました。また近隣住民からと思われぬ寂しい「お疲れ様でした」なように記した匿名のメモが入っていて、店が町の交流の場にもなっていたことを改めて感じています」とも▼「人

間、引き際が肝心」と言いますが、それを実行するのは至難の業。「まだやれる」との自負が判断を曇らせ、結局はにっちもさっちも行かず投げ出すケースを下へ目にします。また華々しく開店したは良いが「儲からん」と見るや周りの迷惑も顧みず突如撤退、てなやり方も昨今は日常茶飯事。「安全の力ネ」とばかりに移ぎまわった挙句、大事故を起こして解散したのが船会社に至っては何をかいわんや▼そんな中で温かくも爽やかなジ・エンド。貼り紙の丁寧な筆致に「昔ながらの日本人の心」を改めて感じ、また「我が人生の終幕もかくあらねは」との思いを胸に、店を後にした次第です。

× × × × ×

高速バスとやらを先日初めて利用したのですが、朝九時前に難波を出たら十一時過ぎに徳島着。明石海峡も淡路島も飛ぶように眼下を過ぎ、目を白黒。「お前、いつの間や」と笑われつつですが、確かに現代の旅はメチャ迅速。飛行機など使えば沖縄や北海道もその日に到着。おまけにLCCの格安航空会社なら驚くほど低料金です▼「ここがタイムスリップして二四一

十五年前の陸奥へ。「雷が鳴り、雨がしきりに降って、寝ている上から洩り、蚤や蚊に食われて眠れない」とばやいたはるのは松尾芭蕉さん。後に『おくのほそ道』でちよつと今頃、六月中旬の道中をこんな風に描写しました。歌枕や文人を訪ね歩く優雅な旅のように思われがちですが、四十代後半に草鞋履きで全行程「千四百」を半年で踏破。その氣力と健脚には脱帽の他ありません▼「ここがまたスリッパして現代の東北へ。大震災で被害を受けた仙台空港が「復興」を看板に民営化されるとか。これを知った女性ライターが雑誌『世界』で「LCCが増便されたりして必ず大惨事が起こるよ」と警告規制緩和や民営化と共に、その落とし子LCCの危険性に警鐘を鳴らし、「経済活動」といっのは本来、人の感情、歴史、気候風土、文化などを合わせて成り立つもの」と効率第一の現代社会に疑問を呈しています▼そこで問題。先の芭蕉はあの長途の行脚から不朽の俳句を残しましたが、さて現代の我々は迅速＆格安の旅から何を残せるか。「高速バス便利やけど(徳島井) 味が無い」てな川柳くらゐですかな。

心通う地域社会に

町会総会 それぞれの味



→ 防災と懇親に重点が置かれ、和気あいあいの雰囲気が印象的だった弁天五丁目東町会の総会風景Ⅱ五月三十一日、港区民センターで

「何でも話し合え、心通う地域社会に」。

区内の町会（百八十超）は今年が一年に一度の役員改選年。総会を開く町会は圧倒的に少数派ですが、その二つに参加しました。「地域の問題は住民自身の手で」という基本は踏まえながらもそれぞれの個性がうかがえました。

田中三丁目町会

このうち田中三丁目町会の総会は五月二十五日（日）朝、田中三丁目集会所で開催され、一四会員のうち約二十人が参加、委任状を含めて計一二の出席がありました。

◆「いい町へ力合わせよう」

議事の中では、町会・集会所・地蔵尊それぞれの事業会計決算・会計監査の報告が各担当者から行なわれ、いずれも拍手で承認されました。このあと南浩一（うしろ）郎会長（六期目）ら新役員・委員・班長が提案・承認・紹介され、新役員を代表して松本寛治副会長（会長代行）が「これまでの活動を踏まえ、新しい意見も採り入れながら、明るく、いい町になるよう力を合わせましょう」と諸活動への協力を呼びかけました。

◆一般会員の協力呼びかけも

← 丁寧・詳細な報告が印象的だった田中三丁目町会。一般会員への協力呼びかけも行なわれたⅡ五月二十五日朝、田中三丁目集会所で



最後に野村慶太副会長（会長代行）が新年度の事業計画として夏祭り、地蔵尊祭り、善意募金、共同募金、敬老大会、歳末防犯、火災訓練、防災訓練などを提案。またこれまで決算報告を単年度と総会時の二回行なっていたのを、実務上の無駄を省くため単年度ごとの承認に切り替えること、また役員の高齢化や固定化を補つため、一般会員の積極的な協力を重ねて提案、いずれも拍手で承認されました。

総会を終えた松本・野村両副会長らは「かつて百五十を超えた会員も死去や引越して年々減り、役員も固定化する傾向にありますが、役

員未経験者や若い方の積極的な参加を得て乗り越えて行きたい」と意欲を語っていました。

全体として、詳細・丁寧な説明が印象に残ると共に、「一般会員にも活動参加を促す姿勢、無駄を省いて少しでも実務上の負担を減らそうという取り組みが注目されました。

＜弁天五丁目東町会＞

一方、弁天五丁目東町会の総会（九回目）は五月三十一日（土）夜、港区民センターで開催され、約百四十名から百人近くが出席しました。

◆独自の「全員避難計画」なご提起

冒頭、挨拶に立った小川宏会長（八回目）は、



→弁天五丁目東町会の総会で、町会独自の「救命講習」や「全員避難計画」を呼びかける小川会長（上）と、紹介される新班長ら（下）

「阪神大震災で助かった人のうち九割は自助・共助によるものだった」ことをあげて「口頭の付き合ひの大切さ」を強調。その表われの一つであり、十五年続く独自の救命講習を「これからも続けよう」と呼びかけました。

さらに同会長は「東日本大震災の発生で、南海・東南海地震による大津波の脅威が報じられている。港区もジェーン台風、第一室戸台風の高潮で大被害を受けたが、経験者も少なくなつた。その上、会員の高齢化や指定避難所までの距離や収容人数の制約などを考えると、全員が避難所まで到達することは不可能と思われる」と地域の現状を示し、それを踏まえた町内での避難のあり方として、①健康な人は自身の判断で自由に高い所へ避難する②迅速に動けない高齢者や身体障害者は二階建以上へ一時避難する③その準備として可能な会員が三階建以上の住居を地域の一時避難所として登録する―ことを提案。「賛同・協力いただける方は役員・班長までお申し出下さい」と呼びかけました。

◆カラオケ大会で和気あいあい

続いて弁天連合振興町会・上田哲夫（てつお）会長が来

←来賓挨拶を述べる上田哲夫・弁天連合振興町

会会長（弁天地域社会福祉協議会会長）と、乾杯の音頭をとる物部秀恒・元市会議員



賓挨拶に立ち、「欠かさず総会を開催する」同町会の地道な活動を称賛。新旧役員紹介のあと、平成二十四・五年度分の決算内容と監査結果がそれぞれの担当者から報告され、質疑応答を経て、拍手で承認されました。

このあと物部秀恒・元市会議員の乾杯の音頭で恒例の懇親会に入り、会食を楽しみながらのカラオケ大会がスタート。最後は全員で「故郷（ふるさと）を合唱、和気（わきあいあい）調々のうちにお開きとなりました。全体として、防災という地域の最重要課題への独自の積極的な取り組みが注目されると共に、交流・懇親に重点を置き、楽しめる総会としていたのが印象的でした。

福島に現状に想い

復興支援集会、原発危険性に警鐘



→「復興支援(3周年)記念集会」で福島の現状を報告する伊東達也さん 〓五月二十四日、大阪市中央体育館大会議室で

原発被災地・福島の現状に理解が深まり、支援の想いがいっそう強まりました。東日本大震災から三年余。発生直後から現地で支援に携わってきた「大阪さづがわ医療福祉生活協同組合」が五月二十四日、「被災地を想う 安心・安全な未来へ」をテーマに、現地で原発問題に取り組んできた伊東達也さんを招いて、大阪市中央体育館大会議室で「復興支援(3周年)記念集会」を催しました。同組合に所属する「みなと生協診療所」(磯路)などが呼びかけ、区内外から百六十人超が参加しました。

◆被害の深刻さ語り「原発ゼロ」よびかけ

前半は伊東さんが「故郷に帰れない」フクシマからの報告と想定されていた原発事故」と題して一時間半にわたって講演しました。

伊東さんは一九四二年生まれ。福島県いわき市在住。高校教員や市議、県議を経て現在「浜通り医療福祉生協」理事長、原発問題住民運動全国連絡センター筆頭代表委員、原発事故の完全賠償をさせる会代表。二〇一一年に日本ジャーナリスト大賞を受賞しています。

講演の中で伊東さんは大要次のように語りま

した。

①福島第一原発の事故は世界で三度目の奇酷事故だが、地震を引き金に発生した「原発事故」としては世界初であり、(1)被害の深刻さ(2)被害の範囲(3)被害額の大きさ(4)復旧への時間の長さからして「日本史上最大・最悪の公害・人災」といえる。

②その被害の深刻さは、(1)誰も住んでいない強制避難区域の面積は大阪府の六割の広さに及ぶ(2)生活手段を奪われ人生を根本から狂わされた避難者はなお十三万五千人もいる(3)避難先での死亡者も増え続けて二六九人(五月二十三日現在)になった(4)福島県の大産業とりわけ農林漁業に損害を与え続けている(5)教育・医療・福祉などあらゆる分野にも被害を与え続けている(6)移転した九町村役場のうち二町村しか戻らず、引越した住民は「割しか戻っていない(7)県内の大部分は依然として自然放射線量を超える人工放射線量にさらされている(8)地域社会が第一原発からの距離・放射線量・賠償額などで分断され対立が持ち込まれている(9)損害賠償を狭く小さく総力を挙げる東電と政府に県民の

怒りが高まっている10各地の裁判では賠償金だけでなく生活再建と将来の安心社会こそが求められている—などの事実から分かる。

◎四年目を迎えて、(1)放射線による低線量被ばくの健康診断・検査・医療の継続的な保障(2)いわれなき偏見による差別を上げないための学校・社会教育の促進(3)原発労働者の労働条件の改善(4)福島再建の大前提となる土壌の廃炉と自然エネルギーへの転換—などの課題をなお抱えている。

このように現状と課題を語った後、伊東さんは「福島から原発をなくすことは福島の地に新しい社会への道しるべを打ち立てること。今回の大事故に屈することなく、その実現に向けて力を合わせよう」と呼びかけました。

◆支援活動の報告や物産展も

このあと「被災地に寄り添った医療福祉生協の活動」と題する報告が担当者から一時間に行なわれました。同生協は震災直後から

①宮城県山元町（山元町）での瓦れき撤去や仮設入居者への健康面での支援②福島県の社会福祉法人への物資支援や現地視察—などに携わってきまし

たが、その間の取り組みを、DVD上映を交えて詳細に報告しました。

また、会場では「福島物産展」と称して、被災地から取り寄せたお米や野菜、塩麴（しほこう）、毎シヤムなどが販売されると共に、支援カンパ呼びかけや原発ゼロを求める署名活動などが行なわれました。

◆「米国の責任も」と参加者

終了後、参加した人たちからアンケートなどを通じて「報道では分からない福島の内情がよく分かった」「原発ゼロに向けて、さらに運動を進めたい」などの感想が寄せられました。

このうち田中から来た三十代男性は「伊東さんのお話を聴いて、福島の現状、被災者の状況がよく分かりました。津波で被害を受けるか、原発で被害を受けるかでは補償が異なり、それによって被災者の間で対立が生じていることには驚かされました」と講演者と講演内容に感謝を述べると共に、「ただ伊東さんは、福島の原発事故に対して東電や日本政府の責任ばかりを追及されていましたが、そもそも福島に、そして日本に原発を強引に押し付けたのはアメリカ政

府であり、引いては米国の原発資本であるわけですから、彼らに対してこそ最も責任を追及すべきだと思つのですが、その二つに指一本触れられていなかったのは、とても残念でした。伊東さんに限らず、どの政党もマスコミも、原発事故に対してアメリカの責任に触れようとしていないのはなぜでしょう。ここにこそ大きな問題があると思うのですが…」と率直な思いも語り、日本の原発問題の底に横たわる根本原因に迫る必要を提起していました。

◆支援活動の活発化願う

主催者として呼びかけなどに汗を流したみなと生協診療所の山本さんは、終了後、「大震災や原発事故の記憶が風化しつつある中で、意識していなければ、福島で本当に起きていることは理解できないと思いますが、この講演で改めて原発というものを強く考えることができ、多くの方に関心を持っていただけたと思います。これを機に支援活動がさらに活発になり、被災地が一日でも早く復興するようを願っています」と話していました。

市PTA協議会が研修会



→「よりよい学校づくりへ学び合おう」との熱気が溢れた大阪市PTA協議会の研修会Ⅱ五月二十四日午後、港区民センターで

◆PTAと地域との結びつきを強める

メインプログラムの活動事例発表は港区と天正区が担当。このうち港区PTA協議会は「PTA主催事業以外の取り組みも重要…」と題して稲生一博・学級活動(中学校)委員長が築港中での「あな(講義会)「ヨット体験」などを、塚田あゆみ・昇弘書記が南市岡小の「カルタ大会」「栽培活動」などをそれぞれ紹介。いずれもPTA活動と地域との連携が生きてきた学校づくりに貢献している点を強調しました。

一方、大正区PTA協議会は、今年二月に取り組んだ「節分祭」の詳細な経過を報告。「綿密な計画・準備」や「メンバーの特徴を生かした任務分担」が予想を超える活況をもたらしたとこ

←港区PTA協議会を代表して発表を行なう稲生一博さん①と塚目晃広さん②



とを強調しました。

最前列で聴いていた築港小PTAの二女性は「子供が築港中へ進むもので同校の発表を興味深く聴きました。活発な活動に感心し、期待と共に、私たちが入った時にやることがあるのか（笑）、不安も感じました」港区ではPTAと地域の結びつきが強いことを改めて感じました。大正区の発表からは会員の特徴を生かす大切さを学びました」など話していました。

忙しい仕事や生活の中で時間を割いて参加し、
熱心にメモをとるPTA役員らの姿に「愛する
子供たちたちのため、少しでもよい学校にしよ
う」「そのためにPTA活動の質をもっと向上さ
せよう」との熱意が感じられた催しでした。

猫ふやさず共存を！

フリマで「町猫」よびかけ



→「野良猫をふやさず、地域で共存できるように行動しよう」と呼びかけ、多くの協力者で賑わった「町猫フリマ」は五月二十五日、築港四丁目

「野良猫をふやさず、地域で共存できるように行動しよう」と呼びかけるフリーマーケットが五月二十五日に築港で開かれ、にぎわいました。主催は「築港町猫倶楽部」。

同倶楽部は昨年末、野良猫保護を続ける個人の自由な集まりの場として結成され、①「町猫」の考えを広める②避妊・去勢手術を広げる③町猫の一代限り・一生の保護・管理を行なう一を目的として活動を続けてきました。資金は寄付やイベント収入で賄うとされ、これまでも様々な催しを行なってきました。

三回目のフリーマーケットとなったこの日は、同地区の主要道路「花の海遊ロード」のクレープ・カフェ「星の森」前で朝から夕方まで開催。地域の人々や観光客が呼びかけに足を止め、衣類や雑貨へ盛んに手を伸ばしていました。中でも、同倶楽部メンバーの特技を生かした、可愛い猫のイラスト入り団扇（一枚百円）が飛びように売れていました。

人も動物も気持ちよく共生を

同倶楽部の呼びかけ人である西浦雅子さん（築港）、天保山公園で「公園ねこサポーター」の野

←フリマで人気を集めた猫イラスト入り団扇



良猫をふやさないよう適切な餌やりや避妊・去勢手術を行なつ市公認ボランティアとして活動する尾崎キヌ子さん（池島）、猫リスト作成などを担当する正岡智美さん（築港）らは「人も動物も気持ち良く生きられる地域になるよう、これからも様々な取り組みで『町猫』の考えと行動を広げていきたい」と話していました。

九月以降にもフリマ予定

今後の「町猫」取り組み予定は、九月以降の日曜日の十一〜十七時に築港四丁目「花の海遊ロード」のカフェ「星の森」前での「町猫フリーマーケット」など。問い合わせは尾崎さん（☎〇九〇・八八二二・〇九〇）まで。

熱戦支える技みがく

区バレー連盟が審判講習会



→「相互審判でバレーボールの楽しさを皆のもの」と開かれた港区バレーボール連盟の審判講習会＝五月十一日、港スポーツセンター

「スポーツの楽しさは正確・俊敏なジャッジから」相互審判の普及でバレーボールの喜びをみんなのものに」と五月十一日、港スポーツセンターでバレーボールの審判講習会が開かれ、四十一人が審判や記録の技術を学びました。港区バレーボール連盟主催で毎年この時期に一回に分けて行なわれ、今年で二十四回目。この日は一回のうちの初回（あとの一回は七月）。

◆ハンドシグナルや記録を学ぶ

一つの試合には主審一人、副審一人、線審（ラインスマン）四人、記録員一人、点示員一人の計九人から成る審判団が必要なことから、講習内容もそれに沿って進められました。

受講者は経験者と初心者に分かれ、主審（リカル）・修正点や新たな規定内容を確認し合った上で、①ハンドシグナルの正しい出し方②笛の正しい吹き方③判定が難しいオーバーネット、ボールイン・アウト、ホールディング、ドリブル、フタツチの見方④審判団各員の位置の取り方⑤審判団内の連携の仕方などを指導員の模範実演や模擬試合での実践を通じて学びました。

指導には大阪府ママさんバレーボール連盟の

←主審と副審の緻密な連携①、線審の俊敏な判断②は試合の進行を促進する重要な要素だ



四人が当たり、区連盟の四チーム（築中OB、LINK、MISAKI、港南中PTA）が模擬試合を行なって講習を助けました。

◆「本番へ力をつけたい」と参加者

受講者の一人、木下幸子さん（八幡屋）は初めての参加で、今回は「記録」を学びました。中学校での三年間、バレーボール部で活動していましたが、結婚して引越後まもなく娘さんが小学校に上がったのを機に、「交友関係開拓」と「自身の体力保持」のため、八幡屋小学校PTAバレーボール部に入部。現在はライト、ライトセミなどのポジションで活躍しています。 「全く何も知らないまま無謀にも参加してし

まいりましたが、手厚いご指導のもと、何とかやり切ることができました。ラリーが続くとプリーに没頭してしまい、記録であたふたすると数回、連続する交代やタイムでは頭が真っ白になってしまったこともあります。これから自分の記録でプリーを中断させたり、進行を遅らせたりすることのないよう力をつけ、本番の記録員として参加してみたいと思っています」と話していました。

◆着実に広がる相互審判

港区バレーボール連盟の篠下俊文会長によると、港区では連盟が発足した一九九一年からたかし みつこ西原隆司、くみこ萩野入美子の歴代会長の



→ 一点示員の機敏な点数表示①と記録員の正確な記録つけ②も試合の円滑な進行に欠かせない

← 迫真の模擬試合で審判講習を支える選手たち



もと、相互審判（出場チームが交代で審判に当たる）を重視して審判講習を開始。区の東西に分かれての講習会や地区単位の講習会、記録だけの講習会などを積み重ねる中で、相互審判は着実な広がりを見せているということです。

同会長は、「四月に新会長となつての初仕事。皆様の協力のお陰で無事終えることができ、感謝しています。受講者には新人もいますが、全体として年々上達しているようです。まだまだ課題はありますが、こつとして講習を積み重ねることで相互審判をさらに広げ、生涯スポーツをみんなのものにしていけたらと願っています」と話していました。

スポーツ短信

●大阪・港ホーイズ（少年硬式野球）

五月二

五日、南大阪大会に出場。初戦、一回戦に勝利、三回戦で健闘むなしく僅差で敗退。十日、東淀川ジュニア大会に出場、一回戦で敗退。一年生は関西さわやか大会に出場、西成ホーイズとの合同チームで初戦に勝利。硬式野球に興味のある小・中学生の体験練習・入部説明随時。 ☎ 〇五・七一・六七五三スポーツさんわ又は ☎ 〇九〇・三八五・四八五香西。

代筆

～何でも書きます、まとめます～

- ★手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案
- ★自分史・社史・団体史などの聞き書き
- ★新聞・広報・書籍・会報などの取材・編集

港新聞・飯田編集事務所

TEL・FAX: 06-6571-4636

Eメール: yamaemi@bridge.ocn.ne.jp

http://osaka-minatonews.sakura.ne.jp/

みなとサロソ

彼に読んで欲しい本

池島・勝部泰臣 八十一歳

第二次大戦中のフィリピン・レイテ島。病気の主人公「私」は敗走する部隊から取り残される。手榴弾一個で六つの芋を手渡されて。山の中を逃げのびる途中で、死を前にした将校に会う。

——「何だお前まだいたのかい。可哀想だ。俺が死んだら、こゝを食べてもいいよ」彼はのろろと痩せた左手を挙げ、右手でその上膊部を叩いた——

戦後十年経って刊行された大岡昇平の『野火』。山蛭が気持ち悪へて、この引用文の後で本を閉じた。以来完読せず。

この本から十年後、広島原爆の悲惨な実態を描いた井伏鱒二『黒い雨』。街を逃げ歩く主人公がおびただしい数の死者に出会う。

——堤防の上の道のまん中に一人の女が横にのびて死んでいるのが遠くから見えた。先に立

って歩いていた矢須子（姪）が「おじさん、おじさん」後戻りして泣きだした。近づいてみると「三才くらいの子が死体のワンピースの胸を開いて乳房をいぢっている。僕らが近寄るのでものをしつかり握り僕らの方を見て不安そうに顔つきをした——

このあと反吐が出そうなの別の死体場面が出てくるが、引用は控える。この本も完読せず現在に至る。

今、新聞・テレビで集団的自衛権をめぐる「憲法解釈」云々と。憲法は解釈するものではない。守るものなのだと思う。

議論している関係者達よ、戦争を知らないなら知らないなりに、歯止めがなくなつてドンパチになった場面を想像してみたい。想像出来ないのなら、こじつけやごまかしを捨て、最低でもこの二冊の本だけは手にとって、頭で描いた絵を今一度描き直して欲しい。

安倍内閣の暴走を止め、平和な日本を！

八幡屋・永砂義明 七十五歳

今、日本といふ国のあり方が、大きく変えら

れようとしています。アジア諸国を侵略し、国民に多くの尊い犠牲をもたらした戦争を深く反省した日本は戦後、「二度と戦争をさせない」という誓いを『日本国憲法』として世界に発信することができました。この憲法は日本の最高法規であるのももちろん、戦後世界の宝であり、人類が到達した真理ともいえるものです。それをこゝにもあるつに安倍内閣は、時の権力による解釈によって実質的に「改正」しようとしている。まさに許すべからざる暴挙に走つていっているのです。

安倍内閣がその解釈変更によって実現をめざす「集団的自衛権」とは、もしアメリカが他国から攻撃を受ければ自衛隊が出動できる権利であり、それは、国民の意思とは関係なく日本が自動的に戦争状態に入ることの意味します。

日本は戦後、憲法九条があったからこゝろ、今までいかなる戦争にも加わることがなかったつまり「人を殺したり、殺されたり」という状態にならなかったのです。これは私たちの誇りでもありました。私たちは、自分の子どもや孫を「人を殺したり、殺されたり」するために育

てているではありません。たった一度しかない人生を本当に生がされなかったら、生まれてきた甲斐がないじゃないですか！

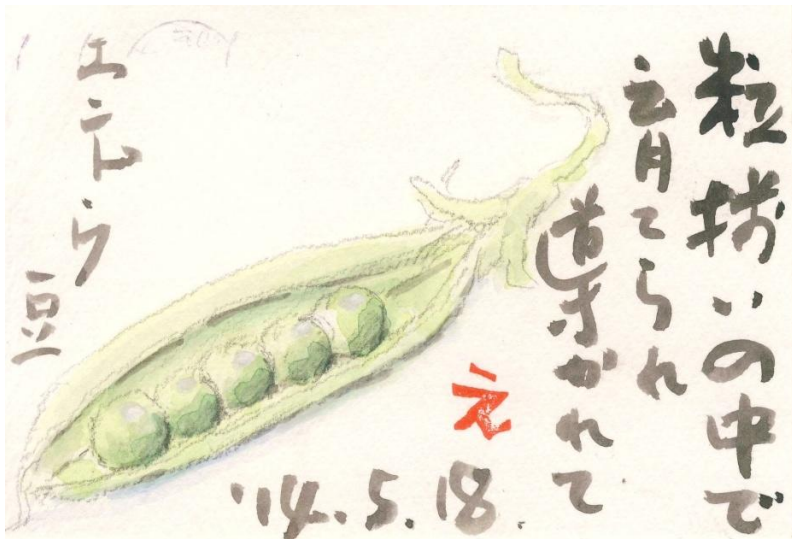
戦争状態になつてからでは遅いのです。それが戦前の貴重な教訓です。安倍内閣の危険な動きを国民の声と行動で阻止し、平和な日本を守り抜きましょう！

『港地域メーデー』に元氣もつた

（築港・七十年代H）

「平和と生活防衛の旗高く！ 働く者の心意気示した『港地域メーデー』（前号一頁）に元氣をもらいました。安倍首相が憲法解釈を変更して集団的自衛権を限定容認する方向を打ち出したこの報道が各新聞のトップを飾った五月十六日朝、港新聞ホームページでこの記事を目にし、あまりにもびつたり噛み合った内容に唖りました。労働運動の浪潮が言われて久しいですが、この港区では、このメーデーを主催した港合同の働きもあり、天を突くが如き労働者の心意気はまだまだ健在のように思われました。私

「辻悦子さん（市岡元町）からの絵手紙



む安倍政権の暴走に、大半の政党もマスコミもまともな抵抗は出来ていません。でも結局はアメリカが怖いのではないでしょうか。またユニクロやワタミやトヨタなど有名企業にもブラックな労働者酷使が横行する情勢を、国でまともに

追及している政党や議員はぐくわずかです（他）の政党や議員はそんな企業から献金を受けているのでしょうか。そんな中、職場・生産点での闘いを基本にしながら、このような大きな政治問題、社会問題でも地域で堂々と声を上げる姿は、まさに労働運動の王道を行くものであり、かつて中途半端ながら労働運動に関わった者として懐かしさも頼もしい思いを持っています。今の世で孤立を恐れずつとした運動を継続する人たちに心からの賛辞を贈ると共に、毎月、働く者が元氣の出る紙面をトップに据えられる貴紙の編集姿勢にも共感を覚えるものです。

市岡商業跡地「売却」と良いのか

（弁天・六十代男性）

「市岡商業跡地を売却へ 『市場調査』報告に区民が意見（前号八頁）を読んで思ったのは、『結果オーライで良いのか』とついついです。というのは、たしかに売却によって地元（弁天・波除地域）の多くの人たちが望む『太学誘致』が実現しそうな勢いですが、それはそれとして決して悪い方向ではないと思いますが、同地

の活用法としては、「売却」以外に市有地のまま活用を図る手もあったからです。

実際、私自身、弁天校下に住む者として、この校舎と土地をそのまま使って防災拠点兼ねた文化拠点にしてほしいと願っていました、それ以外にも市有地のままでの使い方はいくらでもあったはずです。また市有地は市民の税金による市民の財産という点からも、売却するかどうかの決定は慎重の上にも慎重を期さなければならぬと思います。

つまり、そんな選択を初めから度外視して「売却ありき」で進められたように今回の一番大きな問題があったのではないだろうか。

その意味で、説明会の模様を報じたあとで港新聞が提起されている内容は、この市岡商業跡地問題についてまず、市政全般にも通じる提起として、区民は重く受け止めなければならぬと思います。特に区役所は、せっかく一昨年から裁量権限が増したのですから、市の意向をそのまま伝えたり実行したりするだけでなく、もった土地元の状況や意見を踏まえた対応をいかにできているか。

説明会自体は悪いことではありません。しかし、売却が決まり、売却先もほぼ決まった後と一つでは、あまりにも遅すぎます。できれば市岡商業が廃校になった時から区民に話し合いを呼びかけ、論議をリードすべきでした。そういつ働きこそが、まちづくりのプロ集団としての公的機関の役目だと思いますが、いかがでしょうか。

『港断酒会』に静かな感動

（南市岡・七十年代女性）

「ゆつやけ」（裏表紙の編集後記）で紹介されていた「酒やめて新しい自分」家族も一緒に『港断酒会』が花見（前号十九頁）が心に残りました。アルコール中毒で随分と苦労された方、回復された喜びも大きいことが記事から伺え、体験者の感想、特に「主人の依存症で苦労された女性の感想には涙がこぼれました。

一見、私たちには無縁の苦しみのように思えますが、ストレスの多い社会ゆえ、いつ誰かかかるかからない病気でもあると思います。断酒会の方たちがこれからも励み合ひ、二度

と地獄の苦しみ^あに遭われることのないよう願っております。

マスコミなどがあまり取り上げない小さな出来事ですが、読んで静かな感動がありました。いつも息子にインターネットから刷り出してもらっています。この感想も息子にメールで送ってもらっています。今後ともよろしくお願い致します。

学習センター「再出版」について

（西区・七十年代男性）

弁天町市民学習センターが「弁天町ORC200生涯学習センター」として再出版されたという記事（前号十八頁）を読んで、これまでのように利用できることにホッとしました。「市政改革の燃り^あでなくなる」と言われていた時にはどうなるかと心配しましたが、完全民営でもスタッフが前のままというのが嬉しい。「オーク弁天寄席」や「弁天シネマ倶楽部」のファンで、料金が少し高くなるかもしれませんが、少々なな目をつぶって楽しみに行きたいと思います。

温かな描写が郷愁誘う

ギャラリーはたなか「安治川旅情」



→『坂井ユウジロー展』を訪れ、安治川沿いを描いた作品に見入る市岡の中田さん(手前)と案内する畠中館主IIギャラリーはたなかで

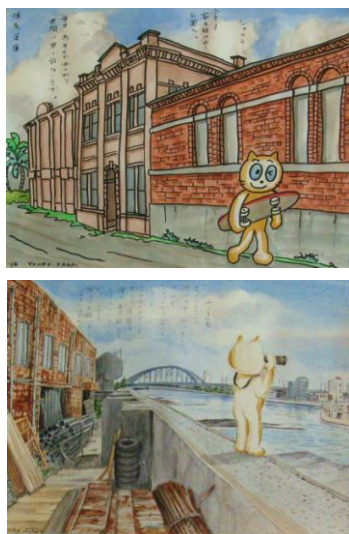
温かな描写が郷愁を誘いました。みなと通の画廊ギャラリーはたなか(磯路)で五月に開かれた『安治川旅情 坂井ユウジロー展』には区内外から多くの人々が鑑賞に訪れ、安治川沿いの風景を描いた作品に見入っていました。

出品したのはデザイン関連の仕事をしている市内在住の五十代男性・坂井ユウジローさん。これまでにも古い映画や看板などを題材に個展を催してきましたが、今回は映画『泥の河』の舞台になったことや自転車散策でのお気に入りコースということで、安治川沿いを選びました。

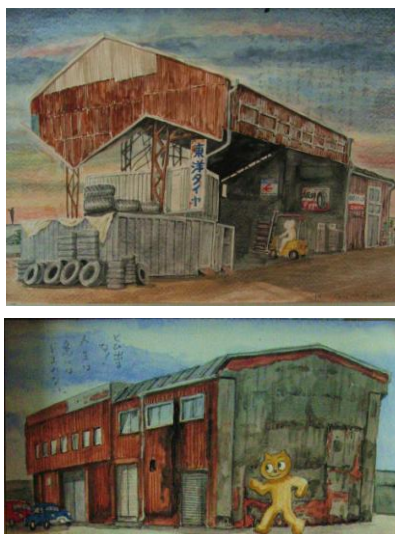
展示されたのは「青正」雨の家など名付けた水彩風のアクリル画十四点。赤煉瓦や白壁に風情が漂う年代物の建築物、トタン壁もシャッターも赤錆まみれの倉庫、使われているかどうかも定かでない木造小屋等々が、郷愁誘う漫画風タッチで描かれ、そのほとんどに作者の分身ともいえる猫が配置されているのがユーモラスでした。鑑賞に訪れた人たちは「あ、これ見たことある」「まだ残ってたんやね」などと自身の体験も重ねて感想を語り合っていました。

因みに、今展にあてた文章中の次の二節に、

←展示作から「シヤララ...」①と「みようにち」②



この場所への坂井さんの想いが凝縮されているようでした。「見事に錆びて滅びゆく街」とはいえ人間のエネルギーは強いので、きつと生き続けていくでしょう。ちょっとだけガンバレ！安治川ロンストリート！」。



→展示作から「浮き雲」③と「飛び出すな...」④

幻想的な色彩美に人気

ナカイグループ「ガラスアート」展



→ 微妙に変化する幻想的な色彩美が好評だった
「ガラスアート ナカイグループ生徒展」Ⅱ五
月十五〜二十五日、池田市緑のセンター

自然光や照明の角度で微妙に変化する幻想的な色彩美が人気の芸術「ガラスアート」。その愛好者の作品を一堂に集めた「ガラスアート ナカイグループ生徒展」が今年も五月十五日から二十五日まで池田市緑のセンターで開催され、約六百五十人の来場者で賑わいました。ガラスアートの創業者である中井芳夫・アツコ夫妻が主宰する「ガラスアート・ナカイ本部」（箕面市）の主催で二十八回目。

「地域に密着した文化を育てたい」と京阪神各地で活動するナカイグループの教室から、港区の「ガラスアートNAOMI教室をはじめ、奈良市・宝塚市・箕面市の各教室主宰者とその生徒二十三人（二十代〜七十代）の力作、合わせて四十六点が展示されました。旅の思い出や花、風景などをモチーフにしたユーモアのある作品が多く、来場者は作者一人ひとりの個性めたかな発想を楽しんでいました。

★ ルーツは京都手描き友禪

主催者によると、ガラスアートのルーツは江戸時代、京都の絵師・宮崎友禪斎（みやざきゆうぜんさい）によって開発された京都手描き友禪。その彩色師をしていた

「『ガラスアート ナカイグループ生徒展』に出品された作品から『ガラスアート 風上げ』①と『ガラスアート 御殿手まり』②（いずれも金元奈保美さん作）



中井夫妻が一九八六年、この伝統技法を応用して一枚のガラスに描く技法と画材を開発「ガラスアート」と名付けました。

「絵を描いたことのない人でも気軽に楽しめるように」と、色は三原色と白・黒・銀の計六色、筆の代わりに竹串一本、パレットはプラスチックカップ一個。「ガラスの上で色あそび」といった感覚のシンプルでユニークな技法が注目を集めています。

★ 「不思議」「癒された」と来場者

作品を鑑賞した人々からは「毎回楽しみにしています。見る角度によって絵が違った風に見えて不思議ですね」（池田市・男性）「友人に誘

われて初めて見ました。ガラスの透明感が涼し
 げで、色が明るく、癒いよされました」(豊中市・女
 性)「年配の方も楽しんでおられるようで、認知
 症予防に私も始めてみようかしら(笑)」(大阪
 市・女性)「どの作品も個性があつて、見ていて
 飽きないですね。ゆったりやさしい気持ちにな
 れました」(奈良市・女性)「ガラスアートが教科
 書に載のっているなんです(うい)ですね。箕面市立
 郷土資料館に行つて十じにもある実物を見てみた
 いです」(京都市・女性)「皆さんが楽しんでおら
 れるのが伝わつてきて、こちらまで楽しくなり
 ます」(和歌山市・男性)などの声が聞かれました。
 展示を終えた金元奈保美さん(港区の「ガラ
 スアートNAOMI」主宰)は「今回も多くの
 皆さんに、キラリ輝く幻想美、を楽しんで頂け
 嬉しく思いました。回を重ねるごとにガラスア
 ートのブームが静かに広がっていることを感じ
 ます。これからも、一人でも多くの方に知って
 いただき、地域文化の発展に努めて参りたいと
 思っています」と話していました。

★「日本の自然」展に金元さんら入選

なお、同グループの金元奈保美さん、中村浩

←「ガラスアートナカイグループ」主宰者・中
 井芳夫・アツコ夫妻を囲む各教室の人たち(上
 と、にぎわう展示会場下)



子さん、大西三子さん、浦壁麻衣さんは第
 二十七回上野の森美術館「日本の自然を描く
 展」に出品し、みこと同時入選を果たしました。
 展示は二〇一四年八月二十五〜二十八日に東京
 の「上野の森美術館」で行なわれたあと、「西日本
 巡回展」として十月一〜五日に神戸市灘区の原
 田の森美術館「本館」随で予定されています。
 ガラスアートについての問い合わせはガラス

アートNAOMI(磯路二二〇・一九・二〇

〇四、☎六五七六・二三四四、金元 まで。

ライブ情報

●市國元町在住の音楽ユニット「花☆キャラ」

ポップスから沖縄民謡まで生活に根ざした明る
 く前向きで分かりやすいオリジナルソング▽C
 D『マルグリータとトマトパスタ』『あなたらし
 くあたらしく』『好評▽六月 十二日(土)十九時
 から音太小屋(北区菅栄町三・二五、地下鉄「天
 神橋筋六丁目」①出口から東へ歩三分、バス停
 「長柄国分寺」すぐ一階Bで「沖縄チャンプルナ
 イト」を主催。沖縄慰霊の日(二十二日)を前に沖
 縄民謡・沖縄舞踊・沖縄ソングが大競演。チャ
 ー
 ジ千円(二飲物付)▽http://www.o
 c.n.e.jp/shanaa23883



→演奏する花☆キャラのニッシー(右)とカオリン

幻影のはかなさ堪能

語りと生演奏『綾羽一紀の世界』



→ 一瞬の輝きと幻影のはかなさを堪能できた
『綾羽一紀の世界』（写真は『長浜鈴蘭商店街
の映画館』の一場面） Ⅱ五月初旬、石炭倉庫

「幻影の作家」といわれた故・綾羽一紀さん^{あやはなすき}の世界を語りと生演奏で表現する『綾羽一紀の世界』が五月初旬、波除のフリースペース「石炭倉庫」で上演され、反響を呼びました。

石炭倉庫を拠点に庶民の生活感情や社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続ける「あんがいはまる一座」のスタジオ公演。日本ペンクラブ会員で座付き作家だった綾羽さんの著作『ガラスの摩天楼』『ガラスの一角獣』『ガラスの黙示録』から四作品をあんがいはまる座長が演出。ヨッシー^{よっしー}原本さんとあんがいはまるさんが出演。「妖怪研究家」としても有名な亀井澄夫^{すみお}さんが電気ギターで生演奏。

★過去の美しさと未来への希望

このうち『ガラスの摩天楼』は、敏腕の広告映像作家が、古本屋で見つけた少女のモノクロ写真に導かれて美しいキャリアウーマンと出逢い、仕事を通じて交際を続けるうち、時間の逆行や人生の再演などありえない光景を目にするというファンタジー。

東京・赤坂辺りの懐かしい街並み、ハイテクを駆使して躍動的に進む現代のCM製作の現場

↑ SF風の『七分の一秒の世界』を語るあんがいはまるさん^あと、タイムスリップもの『視線の町』を語るヨッシー原本さん^し



突然タイムスリップしたように現われる古風な居酒屋、ガラス細工を思わせる高層ビル群での夢のようなアト、そして、女性が少女へ、さらに少女が美しい女性へと瞬く間に変身を遂げるクライマックスシーン。これらが、冷めた趣^{おもむき}を漂^{はら}わせつつ淡々と文辞^{ぶんじ}を辿るヨッシー原本さんの味わい深い朗読で、まるで映画を眺めるかのように流れました。

またサイレント時代の名女優リアン・ギッシュ主演『散りゆく花』『ジェニーの肖像』のモノクロ動画が過去の美しさや懐旧を、ジョン・レノンの名歌曲『ウーマン』が未来への希望や野心を、それぞれ象徴するものとして、効果的

に挿入されていました。

★空虛感と懐かしさが交錯

また『七分の一秒の世界』は、交通事故で死んだ教育映画の監督がその脳を冷凍保存され、数十年後、ロボットに埋め込まれて、意識の中で念願のハリウッド映画出演を果たすという奇抜なSF風作品。

殺人や戦争を示唆する空虛で乾いた近未来の映画シーンと、生前の甘くも懐かしい記憶とが脳の中で重なり交錯する不思議な世界が、メリハリを利かせ、発声や表情を繊細に使い分けたあんがいがおまるさんの巧みな朗読で再現されました。

他に、中世の日本の城下町へ一時的にタイムスリップした父娘の不思議な体験をメルヘン風・推理小説風・歴史小説風に描いた『視線の町』をヨッシー原本さんが、旅行ライターが琵琶湖畔の町で伝説の女優と時空を超えて結ばれるという夢想的で甘美な顛末を綴った『長浜鈴蘭商店街の映画館』をあんがいがおまるさんがそれぞれ朗読しました。

★巧みな展開、確かな朗読技量

現代の汚れや未来の不透明を憂えるがゆえに

過去を美しく儚く描き、「幻影の作家」「ファンタジー作家」と呼ばれた綾羽さん。そのストーリー展開の巧みさや味わい深い筆の運びが改めて感じられると共に、その物語世界を十二分に伝え切った一人の役者の朗読技量の確かさも確認された舞台でした。

また、場面と絶妙に即応した亀井さんの電気ギター演奏は臨場感や情感を、語りを中心に据えながらも明確な輪郭を伴って挿入された映像や歌曲や小芝居は具体性や立体感を、シンブルながらも時機を逸せぬ転換を見せた衣装や照明は色彩感や絵画性を、それぞれ増し加えて効果的でした。全体として、単調に流れがちな朗読に観客の関心と耳目を最後まで惹きつけた演出の卓拔さが光っていました。

なお、今回の上演作品が収録された『ガラスの摩天楼』『ガラスの一角獣』『ガラスの黙示録』はいずれもJDC出版（石炭倉庫と同所）**ハ**五八―二八―一から一九八九―一九九四年に発行されました。

演劇ガイド

●あんがいがおまる一座スタジオ公演『情の夫婦』

落語『風呂敷』をベースにした、豆腐屋

の亭主とがみさんと間男の話。底抜けに善良でとぼけた亭主、色っぽい悪女型の女房、小粋で小心ものの若衆。そこへ他人通の兄貴が事件解決に乗り出す。そんな中にも、長年つれそった夫婦の情が見えかくれする。あんがいがおまる座長が脚本・演出。出演はヨッシー原本さん、道野学さん、あんがいがおまるさん他。六月二十

一日（土）十四時、十六時、二十一日（日）十三時、十五時の四回公演。料金は前売 千三百円、当日 千八百円。詳細問い合わせや申し込みは会場の石炭倉庫（波除ハ・五―一ハ、JR弁天町駅から国道四二号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。**ハ**六五八―一〇六六四、FAX六五八―二六七〇、チケット専用フリーダイヤル〇二〇―三三四―一三九、Eメール theater@sekitansouko.com、ホームページhttp://www.sekitansouko.comへ。

ピアノ伴奏に声合わせ

近隣センターにうたえ広場オープン



「老いも若きも美しいピアノ伴奏で懐かしい歌に声を合わせた「ねこじやらしのシャンテ☆カフェ」＝五月三十一日、港近隣センターで

美しいピアノ伴奏で老いも若きも懐かしい歌に声を合わせる―そんな嬉しいスポットが五月三十一日、港近隣センター（八幡屋）にオープンしました。題して「ねこじやらしのシャンテ☆カフェ」。歌を愛する人たちの集まり「ねこじやらし歌サークル」が主催。学童保育関係者の集まり「ゆずりはの会」が協力。各地で歌声喫茶などを催す「ねこじやらし音楽事務所」が企画協力。今月から毎月第四日曜に開催されます。

♪ うたえ運動のベテランが

初回のこの日は区内外から約五十人が参加。顔ぶれは、幼児、小中学生、若者、ヤンママパパ、中高年、それに後期高齢者とまさに老若男女。午後一時、自称「美人ソプラノデュオ」の女性二人（ピチ☆リチさん）が進行＆リード役に立ち、同事務所の代表・喜多陵介さん（きたりゅうけい）を「ボス」と紹介しました。喜多さんは、各地で音楽活動を展開してきた、この道のベテランで、現在、フリーピアニストなどとして関西や首都圏のライブハウスを中心に活動しています。

♪ リクエストで「高校三年生」など

参加者一人ひとりに歌集が手渡され、気持ち

「美しいピアノの生伴奏で自作の歌も披露した喜多陵介さん（上）と、明るい歌唱で参加者をリードした美人ソプラノデュオ「ピチ☆リチ」（下）



よく声を出すための準備運動として「ゲゲゲの鬼太郎」の目玉おやじの声帯模写（甲高い声で「キタロー」にみんなで挑戦したあと、さっそくリクエストを受けての歌唱が始まりました。「若葉」「いい日旅立ち」「切手のないおくりもの」「さくらんぼ」「ふるさとは今もかわらず」「だんばら」「太陽がくれた季節」「さんぽ」「ひよこりひよたん島」「女ひとり」「高校三年生」「四季の雨」「かえるの笛」「みかんの花咲く丘」「青葉城恋唄」等々、だれもが、いつか、どこかで聴いた、懐かしい歌ばかり。記者もつられて歌っていましたが、女性リーダーの歌声や美しいピアノの

音色が、普段はうまくできない高低音の発声を、
いつの間にか滑らかにしてくれていたようにした。

♪ 歌唱の「ツ」や誕生月にゼントも

「夏の思い出」なごりクエスト者の思い出入れの
ある歌には「学生の頃のキャンプを思い出しな
がら歌います」などの「メント」が読み上げられ、

「涙そうそう」のように少しテクニクを要す
る歌には「三線の音色を思い出かべ、タンタタ
タタンとメリハリを付けて」など歌唱の「ツ」の

伝授も。また五月が誕生日の五人にはプレゼン
ト（紅茶と「一スター」と喜多さん自作のお誕
生日のつたが贈りましたが、これは毎月定例
になるとか。こうして約一時間のつたごえタイ
ムはあっという間に終わりました。

♪ 「生伴奏が素敵」と参加者

八幡屋から来たという三人の六十代女性は
「このセンターの童謡」「フランスの会に入ってい
ます。チラシを見て参加しました。生の伴奏が
素敵ですね。とても楽しかったです」。

市岡高校OBの森西正夫さん（八五）（枚方市
在住）は「ジャンルを問わず歌は大好きで、ねこ
じゃらんの『ただいよん喫茶』にも通つていま

た。特に生のピアノ伴奏がいいですね。機械音
で一人で歌うカラオケとは違い、演奏者や一緒
に歌う人たちの心の響き合いがあります。ア
ンプなど会場の音響装置が改良されれば、さら
に素晴らしい場になると期待しています」と話
していました。

♪ 「歌声で友情の輪を」と主催者

スタートしたこの取り組みについて、喜多さ
んらは次のように話しています。

「私たちがめざしているのは、①日常生活に
良質の生演奏を届けよう②美しい日本語を次世
代に継承しよう③二世代で楽しめる歌を広げよ
うということ。核家族が進み、人々が



→ 同じ歌集を見ながら気持ちよく。会場には世
代を越えた友情の輪が広がった

孤立しやすい今の世の中を、音楽を通じて少し
でも明るくできたらいい、これまでにも全国各地
で、この港区では弁天町や天保山で、活動して
きました。出かける先のない人、田舎の会話が
少ない人、引きもろがちの人などが、この
広場を通じて友情の輪を広げられることを心か
ら願っています」。

♪ 八月は特別ゲスト迎えて

「ねこじゃらしのシャンテ☆カフェ」は港近
隣センター（八幡屋一・四・一〇、八八五七一・
三〇五六）で毎月第四日曜日十四時から開催（十
時半開場）。リクエストを中心に約一時間、即
興で進行。歌集貸与。参加費千円（税込）。次回（六
月二十八日）は特別ゲストに関西地区のNHK
のど自慢でアベがない時代から三十年間、ピ
アノ伴奏をしていた番野擴さんを迎えます。

問い合わせは「ねこじゃらし音楽事務所」（弁
天四・一一・一一ベイシティ港二〇一、八八五
五六・八八八、携帯〇九〇・一五九九・六八
五五喜多、[http://neecoojyaraa
.si.jimdo.com/](http://neecoojyaraa.si.jimdo.com/)）または「ゆずりは
の会」（八八五七一・六八四二）まで。

みなと

人

生

劇

場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがフィクションとしてつづる。当地ドラマ。シリーズ第五弾は、築港在住の九十年代女性が七十年代前に経験した、はかなくも美しいラブ・ストーリー。

ぼて丸の恋 (三)

(前号まで) 築港に一人暮らし九十過ぎの世津子は、ライサービスから帰った春の夕方、地域新聞社長から昔の事を投書するよう助言され思い出が甦った。一愛媛県の浜に育った世津子は紡績工場で働いた後、大阪へ出、市岡ハラダイスに近い叔母の玉突き屋で働くようになつた。昭和十七年春、「ぼて丸」と運名されるほどよく太った十九歳の世津子は、客でタクシー運転手の青年・平田から「田曜日に遊びに連れて行ってあげな」と思われ誘いを受けた――

♥ 梅田駅の混雑の中へ

約束の朝、阪急梅田駅の改札前広場はものすごい人出で混雑していたが、背の高い平田の姿はすぐに世津子の目にとまった。色目で黒い色の眼鏡をかけた平田は明るいグレーの背広に鳥打帽。世津子は田舎の母が送ってくれた薄桃色の紺の着物に小さなバッグを抱えていた。

先に切符を買ってくれていた平田は、店で遊ぶ時と同じように朗らかに笑いかけながら、ポンと世津子の肩を叩き、親が子にするような自然さで、右手で世津子の左手をとった。「ぼて丸さん、出発じゃ」。そう言って改札の方へ歩き始めた。が、そんな初めての経験にぎこちなくなっていたのが、世津子の左手は、後ろからの人波に押されて平田の手をすべに抜けてしまった。視界から隠れた平田を追ひ、夢中で人ごみをかき分けた。ほどなく見つけたものの、申し訳なさど恥ずかしさに俯く彼女を旁わるように、「すまんすまん 人が多いけん、びっくりにしたじやる」とかけてくれた平田の穏やかな声を、世津子は今もはつきり憶えている。

♥ 乗り継いで宝塚へ

行き先は宝塚だったが、平田と世津子は混雑

を避けて宝塚線には乗らず、神戸線に乗って西宮北口で乗り換えた。しかし天気が良かったせいもあって、電車の中は行楽の家族連れで溢れ、乗り換えるまでも、乗り換えてからも、座ることはできなかった。その頃はまだ日本の旗色が悪くなかったので、国民の心にも休日にはレジャーにくりだす余裕があったのだらう。

それでも停車する駅のホームでは、そんな気分を戒めるかのように、「撃ちてしまえんー」「欲しがりません勝つまではー」などと書かれた勇ましい絵入りの大きな看板がこちらを睨んでいた。それで、電車に乗ってからは平田が世津子の手を取ることはなかった。

二人は並んで吊革につかまりながら、外の景色を眺めていた。世津子より大阪で長く暮らし、しかもタクシー運転手という職業柄、大阪近郊の地理に通じていた平田は、窓の外を指さしながら、「これは神崎川じゃ」「あれは猪名川」「ありゃあ武庫川」。宝塚まで続くとるむじや」「などと教えた。それに「へえー」「はい」など頷いていつち、世津子は緊張していた気持ちがだんだんと和らいてくるのを感じていた。

♥ ベンチとの語り

宝塚駅には十一時ごろ着いた。そこから武庫川沿いを歩いて宝塚大劇場のそばの食堂に入り、厚食をつた。厚前でも満席だったが、少し待つて座るじができた。平田は天麩羅をつた。世津子は月見づんを注文し、途中の売店で買った麦飯のお寿司も一緒に食べた。

そのあひは、じをどんな風に歩いたのが、世津子の記憶にはほとんど残っていないが、新緑の木陰を、ただ平田に案内されるままに、まるで夢を見ているような心持で付いて行き、最後に温泉の入口あたりののベンチに腰を下ろして草餅^{くさもち}か何かを食べながら、互いの故郷や家族のじを語り合ったのを覚えてる。

世津子は、家の前の海で採れる貝や海藻の豊富なじ、父の遊び好きで母が苦労しているじ、中国から南方へ赴いた兄は少年時代、よく勉強が得意で「王もつまかったこと」など話を話し、平田は、故郷・尾道の街には坂道が多いじ、有名な千光寺の塔は赤くて汽車からもよく見えるじ、向かいの島のドックからカンカンとびつ金属音が風に乘って流れてるじ、



五年前、父の船大工を継いだ兄を兵隊に取られた両親が見送りのあと隠れて泣いていたことなどを、遠くを眺めるような目つきで懐かしそうに話した。

♥ 優しく涙あふれじ

いつしか春の日は傾き、行楽の人通りもまばらになっていた。平田は「あんまり遅つなると叔母さんが心配なさるけん…」と立ち上がった駅の方へ足を向けた。と、その瞬間、たぶん平田の優しい心づかいに胸が熱くなったからだろう、そしてこの夢のような時間が何となくこれで最後になるような予感で胸が一杯になったからだろう、遅れて立ち上がりながら、世津子は涙が溢れそつになったのを覚えてる。

帰りは宝塚線に乗り、池田や豊中を通して梅

田へ出、そこから市電を乗り継いで港区へ帰り着いた。阪急でも市電でも今度は座ることができたが、市電では向かいの席から四十歳位の憲兵が渋い表情で「こちらを睨んでいたので、平田も世津子も申し合わせたように眠ったふりをした（心地よい疲れで本当に眠かったこともあった。夕陽橋の停留所で別れる時、そのことを二人で口に出して笑い合った。そのとき市岡バラダイスから閉館を告げる七時のオルゴール音が流れてきた。

店への帰り道、東の空に白くかかった三日月を、平田のよつだと世津子は思った。

♥ 一人、二人と戦地へ

その後、平田はなぜか、ぱったりと店に来なくなつた。やがてラジオや新聞での「大本営発表」とは裏腹に、ミッドウェーやガダルカナルで苦しい戦いがあつたことが風の噂に伝わってきた。そして、それと歩調を合わせるかのよう、店のお客の中から、「いついつ赤紙お集令状が来つてた」と寂しげな笑いを残して、それきり顔を見せなくなる者が一人、また一人と増えていった。

(つづ)

再開の喜び溢れた高座

「オーク弁天寄席」に変わらぬ熱気



→再開した「オーク弁天寄席」。有料化にもファンの変わらぬ熱気と笑いが溢れた。五月二十八日、弁天町ORC200生涯学習センター

変わらぬ熱気のうちに「復活」をアピール。

リニールアルオープンした「弁天町ORC200生涯学習センター」（弁天町）で五月二十八日、旧・弁天町市民学習センター時代の人気イベント「オーク弁天寄席」が再開され、満席の聴衆で賑わいました。主催は「オーク弁天寄席の会」と同センター。ORC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。

●上賓の笑い提供して十九年

「オーク弁天寄席」は平成六年十一月、徳島県出身の落語家・笑福亭學光さん（笑福亭鶴光門下）と大阪府出身の講師・旭堂南麟さん（旭堂南稜門下）の呼びかけで、旧センターのホールを会場にスタート。以後十九年以上にわたって毎月第四水曜日（八月は第四日曜日）の夜、學光さんの落語と南麟さんの講談を定番に、関西の中堅・若手芸人が月替わりで登場。漫才あり、奇術あり、阿波踊りありのバラエティ豊かな上質の笑いを、参加費無料で市居民に提供し続けてきました。が、「市政改革」で旧センターが三月末で「廃館」となり、それまでの市設民営が民設民営になったことで、四月は開

「オーク弁天寄席」の創設者である二人。笑福亭學光さん（上）は『お玉牛』を、旭堂南麟さん（下）は『太閤記』を熱演、寄席再開の喜びと継続への意欲も語った



催をいったん休止。参加費を有料（当日五百円、前売四百円）として再開されたものです。

●『お玉牛』など「爆笑

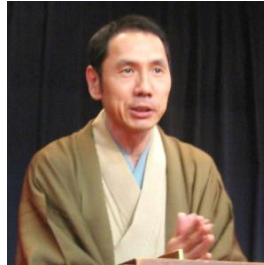
第三三回となったこの日は、トリの學光さんが表情や身ぶりも超リアルに古典『お玉牛』（男が夜這いに入った床には若い娘でなく牛が寝ていたという色噺）を、南麟さんが立板に水を流す名調子の語りで戦国物『太閤記』（若き木下藤吉郎が易者の見立て通り天下盗りへ疾走する出世譚）を、大阪市出身のベテラン桂文昇さん（五代目桂文枝門下）がとぼけた味わいもたつぷりに古典『餅屋問答』（高僧「高

度な問答を挑まれた餅屋転じて二七坊主が意表を突いた対応で完勝してしまつ頓知物」を、新進女流噺家の月亭天使さん（月亭八天門下）がメリハリを利かせた元氣な語り口で古典『犬の目』（眼病の男が犬の目玉を移植され性格が変わる滑稽譚）を、それぞれ熟演。爆笑に次ぐ爆笑を呼びました。

●「文化発展のため」と継続へ意欲

それぞれの枕では「この寄席が有料になって一人もお客さん来てなかったらどうしようか思つてまして」文昇さんなど演者側の正直な気持ちが見え、共に「講談も落語も文化。それを分かん人もありますが、皆様のお陰で続けられることになり、ほんまありがたい。持病を抱えてますが、それに負けんと高座を務めて参ります」南麟さん「これから大阪の文化発展のため、新しいネタも入れながら長く続けて参りますので、よろしゅうお願い申し上げます」「學光さん」など継続への意欲を表わす言葉が次々と飛び出すなど、寄席再開への安堵と喜びに溢れた高座となり、会場にもそれに応える熱気が満ちていました。

←大阪市出身のベテラン桂文昇さん①は『餅屋問答』を、新進女流落語家の月亭天使さん②は『犬の目』を熟演し、爆笑を呼んだ



●有料でも「見てやるのはいい」

終了後、聴衆の一人、青木弘美さん（五〇）（夕凧在住）は「この寄席がスタートしてから仕事帰りに欠かさず来ています。それまで神戸の寄席（煉瓦亭）にも通っていましたが、この寄席で落語がもっと好きになりました。再開はとっても嬉しいです。有料になっても良いものは良いので、これからもずっと参加したいと思っています」と話していました。

また、やはり仕事帰りに毎回参加してきたといつ四十代夫婦（兵庫真在住）は「再開をとても嬉しく思っています。今日は久しぶりに學光さんの『お玉牛』を聴けて楽しかったです。有

料でも関係なく、これからも参加するつもりです」と話していました。

●次回は八月 二十五日（水）

次回（第三四回）は八月二十五日（水）午後七時～八時半。笑福亭學光さんの落語と旭堂南麟さんの講談を中心に、桂あおばさん（神戸市出身、桂ざんば門下）、笑福亭昌好さん（宝塚市出身、笑福亭昌鶴門下）も迎えます。参加費五百円（前売四百円）。先着二百人。問い合わせは同センター（地下鉄・JR「弁天町」駅下車すべ、オーク200の七階、☎六五七二・一四一〇）まで。

隠岐
珈琲館
おいしいおいしい! 炊きたてコーヒー
マスターおすすめ! 手作りハンバーグ
営業AM7:00~PM5:00 (休毎週月曜日)
磯路3-25-6 ☎6575-3051

健康マージャン教室
賭けない!
飲まない!
吸わない!
マージャンひろ
磯路3-25-3 喫茶おき2F ☎6574-6643

平和のため

戦争体験

語り継ごう

今月の語り部

さかもと きょうこ

坂本 京子さん(八二) 磯路在住 ④

幼いまで 昭和七年、港区千代見町に生まれた私は日中戦争から太平洋戦争へと戦火が拡大する中で小学校生活を送り、疎開先では耐乏と和を学んだ。卒業のため帰阪中の二十年三月、大空襲に遭遇するも家族五人と我が家は無事だった。父の里・大分県へ疎開し、女学校で勤労奉仕に明け暮れる中、母が四十歳で死んだ。

玉音放送に涙溢れ

食糧難に台風…戦後も苦労続く

母は死ぬ少し前から毎日のように「大阪へ帰

りたい」と言っていました。そんな母の体が少しでも楽になるように、私は夜中でも起きて湯を沸かし、体を鹽しほに入れて温めてあげると、「気持ちええ」と目を細めていました。その顔を見たくて、私は眠くても起きて湯を沸かしたものでした。また死の前夜には「若い時、三越百貨店の婦人部長をしていて、マネキンが少ないので、代わりに新しい洋服を着てショーウィンドウに立つたことがあった」とか「男性に家まで送ってもらったこともあった」とか、昔のことを笑みを浮かべて懐かしそうに話してくれましたが、そんな表情はそれまで見たことがありませんでした。

その母もいなくなり、ほとんど子供ばかりの生活が始まりました。母の着物をほどこいて弟や妹の服に縫い直したり、靴がないので人に教わって草鞋わらじを作ったり、家族の衣食を賄まかなうことに追われるようになった私には、学校生活はなくなっても同然でした。その学校では、運動神経の良かった私に「バスケットボールのメンバーになって」という要請がありました。とてもそんな気分になれなかったのを覚えています。

◆勤労奉仕中に終戦

その間にも戦況は好転するどころなく、やがて暑い八月になり、六日に広島、九日には長崎に新型爆弾(原爆)が落とされ、十五日の終戦を迎えることになりました。

夏休みに入っても私たちは勤労奉仕に出ていましたが、その日、いつものように草むしりをしたあとのことでした。そばを流れる駅館川やつかんがわに足を突っ込んだ状態で、昼のサイレンと共に、「天皇陛下から」というラジオ放送(玉音放送)を聞くことになったのです。意味はほとんど分かりませんでしたが、涙を含んだような声の調子から悲壮感が伝わってきて、また自分のそれまでの人生とも重なり、何ともいえず辛い気持ちになったのを覚えています。

ほかの人はどうだったか分かりませんが、私としては、日本が勝つとが負けるとが考えず、子供ながらに必死で毎日を生きてきただけに、負けた悔くやしさよりも「なんでこんな戦争をしたんやろ」という情けなさで一杯になり、涙がじわーっと込み上げたものでした。

◆父はだまされ一文無しに

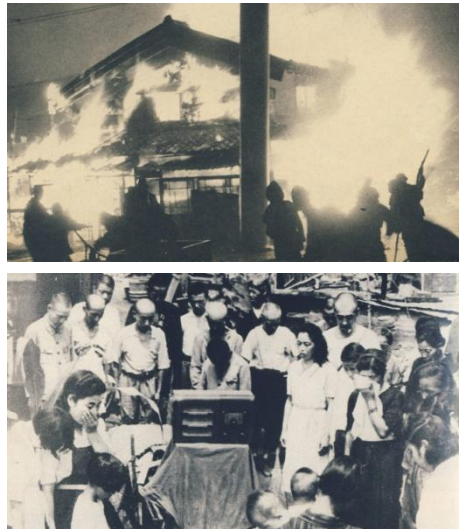
「ついでに長かった戦争は終わりましたが、母のない子供たちを抱えた父は、この混乱期、あらゆることをして私たち子供を守ってくれました。ある時など、戦後のインフレーションを見越してびっくりするほどたくさんのお金（フライパン）を手に入れて押し入れに隠しておき、タイミングを見てお金を換えたこともありました。そんな父の奮闘を思い返すと、今でも涙が流れます。」

しかし、そうして迎えた終戦の年の大晦日、父の知人がやって来て、「正月の餅もないや」と訴え、今のお金に直せば一億が一億にもなる高額の手に印鑑を押してもらいたいと求めました。人の善い父はまたもや情にほだされ、その通りにしてあげました。結局、知人はそのあと破産して姿を消し、父に債務が回ってきましたが、そんな大金があるはずもなく、せっかくこの地で手に入れた家や家財道具一切に赤札を貼られ、一文無しになってしまったのです。

◆大阪で再出発も家はな／

戦争に敗れ、妻を亡くし、おまけに家も家財も失ってしまったのは、もつこの地にいる意味はないと感じたのでしょつ、父は長女の私に「姉

「太平洋戦争は国民に甚大な被害をもたらして終わった。上は水道管が被弾してポンプの水も届かず燃え盛る北区の民家（昭和二十年六月十五日）、下はラジオで天皇陛下の終戦の詔勅を聴く国民（昭和二十年八月十五日）」



ちゃん、ここにいったらみんな死んでしまつ」と同意を求め、私たちを連れて大阪へ戻りました。昭和二十一年（一九四〇）年春のことでした。が、前年の八月空襲で港区千代見町の我が家は焼失。一面の焼け野原に、黒く焼け焦げた土台石だけがかつての面影をとめていました。

仕方なく、私たちは堺東にあるとき母の親元へ身を寄せ、その納屋で暮らすことになりました。

した。お金がないので、市場に捨ててあったキヤベツや白菜の外の皮を「鶏にやるんです」ともらって帰り、それを煮て皆に食べさせたりしました。それでも誰一人愚痴をこぼす者はいませんでした。

やがて父は、酒屋時代に取引のあったミツカン酢の社長に頼み込んでお金を借り、今の市岡元町のみなと通沿いの土地を購入。そこにバラック小屋を建てました。そして酒販業の免許を取得し、酒屋を再開したのでした。父の里の大部分から送ってもらった木材を私と妹で細く短く伐って薪にし、それを店で売ったりもしました。生きるために、みな必死でした。

◆シエーン台風で営業断念

ところが何事も順調には行かないもので、昭和二十五年（一九五〇）年九月、シエーン台風による水害に見舞われました。商品の四斗樽のお酒がぶかぶか浮き出て、それを筏に乗った人たちが、「だめだめ」と私たちが声を枯らして制しても素知らぬ顔で盗っていくつ、何とも情けない事件もあり、その日の商売は諦めるを得なくなりました。



写真で旅する港区あの時

▼…地上げ(昭和三年・八幡屋)



港区はもとも低地帯であった上に、工場による地下水くみ上げなどで地盤沈下が進み、戦前から高潮や台風被害が絶えませんでした。そこで第二次大戦で破壊された市街地の復興計画を大阪市がつくる際、港区では、①区画整理②高潮対策③大阪港の内港化—という三つの目的を同時に追求することになりました。

この事業では港区の九割(八九〇%)を全面一^{もりと}盛土^{かさあ}・高上げしました。期間は一九四八(昭和二十三年)から一九九二(平成四)年まで四十四年間。事業による建物移転は七三九七戸。完成道路延長一〇・〇^{km}。世界的にもこれほど大規模な区画整理事業はありませんでした。その最大の特徴である全面盛土方式は、①高潮対策に最も有効②戦災直後で移転を要する建物が少ない③大阪港内港化で安治川の底を^{きじ}浚えた土砂を利用できる—などの理由で採用されました。

◆市電線路が左から右へ移った

上の写真はその盛土工事(地上げ)中の一九五八(昭和三十三年) 月、当時二十九歳だった山本安孝さん(八五)(田中在住)が写したものの。みなと通の八幡屋付近から大阪港方面を見た風景

↑と同位置から撮った現在のみなと通の八幡屋付近、地下鉄中央線の高架下駐車場。左にロイヤルホスト、右に八幡屋公園前交番



で、前年には市電が左側の低い所を走っていましたが、この撮影時は、線路が整備された右側の高い所を走っています。左に今はなき映画館「八幡屋劇場」が見えます。

ミニ文化案内

●港図書館

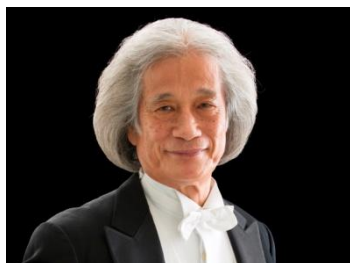
①図書展示「身体を動かしてみませんかの本」展Ⅱラジオ体操やストレッチ、ウォーキングなど簡単にできる運動の本を展示。六月二十九日(日)まで開催中。七月一日(火)からは「子どものほんだな」展②ミニ図書展示「のりものだいすき」展Ⅱ乗り物をテーマにした子ども向けの本を展示。六月二十九日(日)まで開催中③おたのしみ会Ⅱ毎週水曜日十五時半〜十八時、じゅつたんコーナーで。幼児を対象に、絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要④あかちゃんのおたのしみ会Ⅱ毎月第一金曜日(七月は四日)の十一時〜十一時半、じゅつたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。申込不要⑤「せんの風」による紙芝居上演Ⅱ毎月第一土曜日十五時半〜十八時に(七月は五日)⑥図書小フンティア募集Ⅱ港区内の保育所や幼稚園などでもたちに絵本の読み聞かせなどの活動。応募は七月四日(金)までに▽☎六五七六・一三四六。

●関西フィルハーモニー管弦楽団『いずみホール』

ルシリーズ vol. 34

「感動の系譜」古典からロマンへ」をテーマにクラシックの魅力を再発見する「The Discovery」シリーズの三十四回目。今回は「珠玉のオール・R・シユトラウス・プログラム」と題して、生誕五十年のR・シユトラウスの名曲を同楽団桂冠名誉指揮者・飯守泰次郎さんの指揮で贈る。

演奏曲目は、①弦楽八重奏曲(歌劇「カプリッチョ」前奏曲②月光の音楽(歌劇「カプリッチョ」間奏曲)③オーボエ協奏曲Ⅱ長調④交響詩「ドン・ファン」作品20⑤「サロメの踊り」



→指揮を担当する関西フィルハーモニー管弦楽団桂冠名誉指揮者・飯守泰次郎さん(©武藤章)と、オーボエ独奏を担当するイヴァン・ポディオモフさん⑥

作品54。ロシア出身で現代の若手を代表する

オーボイスト、イヴァン・ポディオモフさん(二〇一一年ミュンヘン国際コンクール第二位、一〇年ジュネーブ国際コンクール最高位、〇九年国際オーボエコンクール軽井沢第一位、〇八年ブラハの春国際コンクール第一位)がオーボエ独奏。七月八日(火)十九時からいずみホール(JR大阪環状線・大阪城公園駅から歩約三分、同「京橋」駅南口から歩約八分、地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪」シネスパーク駅から歩約五分)で。十八時四十分から指揮者フレートク。S席五千円、A席三千五百円(全席指定・消費税込。無料託児サービスあり(先着二十名、申込締切八月二十四日)。☎六五七六・一三八一。

●井大町ORC200生涯学習センター・井大

シネマ倶楽部『グレン・ミラー物語』

「心に残る名作映画を低料金で多くの市民に」と旧・井大町市民学習センター時代に企画され、人気を博したイベントの再開第一回、通算第二十四回。今なお愛され続けるジャズナンバーを数多く生み出したグレン・ミラー。その半生を綴るにとどまらず、お互いを信頼し、同じ夢を持ち

「弁天シネマ倶楽部『グレン・ミラー物語』から



続けた夫婦を描いた感動作。『セントルイス・

ブルース』『イン・ザ・ムード』『ムーンライト・

セレナーデ』『真珠の首飾り』『茶色の小瓶』

など懐かしいスウィングジャズの名曲が溢れ出

す。監督はアンソニー・マン。出演はジエームス・

スチュアート、ジューン・アリスン、ルイ・アー

ムストロング他。一九五四年アメリカ、カラー、

一一八分。七月十日(土)十時と十四時から講

堂で。料金は一人一回八百円(前売五百円)。定

員は各回先着百名。当日正午からロビーで無料

ライブを予定。公八五七七・一四一〇。

●シネ・ヌーヴォー『生誕二〇年記念 脚本家・

小國英雄の「仕事」』日本映画界を牽引してき

た監督や脚本家に畏敬の念をもって語られるシ

ナリオライター小國英雄(一九〇四―一九九八)。

その半世紀に及ぶ軌跡を回顧する特集上映。喜

劇から悲劇まで、娯楽時代劇から奇妙な味の現

代劇まで、のびやかな作風と手練れの技で生涯

に残した三百本超から二十三作品を七月四日ま

で上映中。六月十五日以降の上映作品(カッコ内

は製作年と主演俳優は、『エフケンの法界坊』

(一九三八年、榎本健二)『エフケンの頑張り戦

術』(一九三九年、榎本健二)『男の花道』(四一年、

長谷川一夫)『幽霊列車』(四九年、柳家金語楼

『女医の診察室』(五〇年、原節子)『離婚』(五

一年、木暮実千代)『一人の瞳』(五年、マー

ガレット・オブライエン)『宇宙人東京に現る』

(五八年、刈田とよみ)『吸血蛾』(五八年、久慈

あさみ)『眠狂四郎無頼控』(五八年、鶴田

浩二)『江戸子祭』(五八年、長谷川一夫)『水

戸黄門漫遊記』(五八年、勝新太郎)『はった

り一挺拳銃』(六〇年、伴淳三郎)『しのび逢

い』(六二年、佐田啓二)『無宿人別帳』(六三

年、佐田啓二)『雑兵物語』(六三年、勝新太郎

『六人の女を殺した男』(六五年、フランキー堺

『クレージーの無責任清水港』(六六年、植木

「佐渡金山を舞台に権謀術数を描いた群像時代
劇『無宿人別帳』(上)と、戦国時代の下層民の
個性が爆発する快作『雑兵物語』(下)



等)『小さい逃し者』(六八年、稲吉十香。当

日一般千四百円。上映スケジュールなど詳細は

同館西区九条一・二〇・二四、地下鉄九条駅⑥

出口歩三分、公八五八二・一四一六へ。

●ガットネロ 市岡在住の社会派シャンソン歌

手・松浦由美子さん主宰の音楽喫茶。毎月様々

企画▽なんてったってシャンソンⅡ「ガットネ

ロ実験劇場」の十一回目。松浦由美子さんのシャ

ンソンをメインに映像や後藤ミホさんのアコ

ーデオ、久保比呂志さんの津軽三味線&キ

ーボードなど三部構成で。六月 十日(金)十

時から兵庫県立芸術文化センター神戸女学院ホ

ール(阪急西宮北口駅歩二分)で。チケット三千
円(学生千円)▽グリーンライブ・てんこもりⅡ
みどり・のみどりさんのつた&トークと古城浩
子さんのピアノ。会費 千円(完売)▽HAMO
R・BEE(はもりべ)のつた★カフェ第十九回
Ⅱ若手テノールデュオ(中川公志さん・小原有
貴さん)が日本の懐かしい歌を歌う。二〇一四年
のテーマはつき・ひ・はしを歌う。六月 十六
日(木)十五時(完売)、一十七日(金)十五時と十
九時、七月十八日(金)十一時と十五時の全五回
(各六十分)。ピアノは古谷優子さん(六月 十六
日、一十七日)と福本由美さん(七月十八日)。会費 一
千五百円(一飲物付・要予約)▽クラシックカフ
エ第四八回Ⅱ夏をオシャレな音楽でをテーマ
に中島恵美さんのソプラノと宮崎剛さんのピアノ



→ガットネロを主宰する松浦由美子さん①と
「うた☆カフェ」出演のHAMORI・BEE②

ノでガーシュイン、武満徹など。七月四日(金)
十九時。会費 千円(定員十五名・要予約)▽松浦
由美子のシャンソン百物語第八十七回Ⅱ松浦由
美子さんの歌と藤田稔さんのピアノで「美輪明
宏作品を歌う」の五回目。七月 二十日(日)十五時
から。会費 千円(一飲物付)▽ガットネロは天
王寺区上本町六・二・三七、地下鉄台町九丁目
駅①出口、☎六七六七・〇〇二。

●ギャラリー&カフェ風庵「近江の麻」展 人

類最古の繊維である麻は丈夫で吸水・発散性にも
優れていることから「夏の繊維」とも呼ばれ
る。琵琶湖の風土をいかした近江(滋賀県)の麻
で作ったタオル、バッグ、コースター、絵本、団扇
などを一堂に展示。一昨年の好評に心えて再開
催中。七月三十一日(木)まで▽風庵は南市岡二
・二・一〇(繁栄商店街)、☎四九六五・五九八
二、十時〜十八時開館(日曜定休)。

●映画『生まれる』自主上映会 両親の不仲や

虐待の経験から親になることに戸惑つた夫婦。出
産予定日に我が子を失った夫婦。子どもを望ん
だものの授けられない人生を受け入れた夫婦。完
治しない障害を持つ子を育てる夫婦……。生まれ

「ゆずりはの会が六月二十二日(日)に港近隣セ
ンターで自主上映する映画『生まれる』から



てきた意味や家族の絆、命の大切さ、人との繋
がり、そして「生きる」ことを考えるドキュメ
ンタリー映画。企画・監督・撮影 豪田トモ。ナ
レーション つるの剛士。一〇四分 カラー。六
月二十一日(日)に港近隣センター(八幡屋二・
四・二〇入舟公園横、☎六五七二・二〇五六
一階で。十一時、十四時、十七時の三回上映。
鑑賞料金は大人千円(当日千五百円)、小中学生
五百円(当日六百円)、未就学児無料(保育なし)。
問い合わせは主催の「ゆずりはの会」(池島二・
一〇・一五 成和ビル一階、☎六五七一・六八四
三、携帯〇九〇・一九〇四・六八七西原まで。

ひとくちPR

(二行≒税込二〇〇〇円)

●介護のことばお任せ

①介護や老いの相談に
乗ります②介護を受けるための手続きを代わり
にやります③デイサービスは送り迎え付きで入
浴・昼食・手芸・ゲーム・テレビ鑑賞・カラオ
ケ・囲碁・将棋・麻雀・体操・おやつなどを楽
しみます④訪問介護は買い物・掃除・洗濯・通
院などのお手伝いをします。問い合わせはお気
軽にNPOなどと合同ケアセンター(☎六五八
三・四八八〇)FAX六五八三・二二二〇へ。

●あなたのふとんが生まれ変わる

わた 綿も羽も

掛け敷も、熟練職人が心込めて仕立て替え。シ
ングル掛(敷ふとん二万円)。ふとん館ひらの
や(南市岡三・二・一八 繁栄商店街東入口フリ
ーダイヤル〇二〇・四二四九・五五)。

●レンタルフーボックス

一八〇〇円。鍵付きガラスケース、棚上陳列ス
ペース、ハンガー、足元置きカゴなどの月極レ
ンタルも。コスメハウスナナイロ(南市岡三・
二・九 繁栄商店街内 ☎六五八六・二九五)。
●アルバイト急募 週一回の新聞配達と月一回

の集金を都合のいい時間」。港民主商工会(分
店二・一〇・二六、☎六五七二・七八六七)。

●放課後・春夏冬休みは学童保育へ

入所見募
集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを
指導。体験可。☎六五七五・〇三三五ありんこ。

●ボクササイズでシェイプアップ

女性も小・
中・高生も楽しく練習。親切指導。家族的雰囲
気。月会費八千円(無期限十枚つづりのチケット
八千円)。入会金二万円を只今半額。練習日は
月・水・金の十九時半〜二十一時半。港ボクシ
ングジムは三先二・三・九(地下鉄朝潮橋駅

南側の歩道橋すぐの裏通り)。http://a
meblo.jp/minatogym/

●新しい学びの世界へ！

チーム学習によって
全員ができる。をめぐる画期的な学習スタイ
ル。小〜高三。月謝は週一回で実質八千円。

NPOが運営。問合せはメールで「みなびあい・
スクール 繁栄商店街」(info.ubiqui
tous.adv@gmail.com)へ。

●生涯学習をサポートします

音楽・絵画・健
康体操・ダンス・川柳・書道・生け花・語学・
茶道・手芸などの学びを応援。研修・会議・イ

ベント利用もOK。弁天町ORC200生涯学
習センター(弁天一・二・二・七〇〇、地下鉄・
JR弁天町駅直結、☎六五七七・一四二〇)。

●何でも書きます、まてめます

手紙・案内・報
告・司会等の文案。自分史・社史等の聞き書き。
新聞・広報・書籍・会報等の取材・編集。☎六五七
一・四八三八 港新聞・飯田編集事務所。

読者プレゼント

※いずれもハガキに今日までの感想とプレゼント
名を書いて二十日までに港新聞へ。

●関西フィル「いすみホールシリーズ3」(三

二文化案内)招待券をへア一組に。

●弁天町ORC200生涯学習センター「オー

ク弁天寄席」(三〇頁)招待券をへア一組に。

●弁天町ORC200生涯学習センター「弁天

シネマ倶楽部」(三二文化案内)招待券をへア一
組に。

●あながいおまる一座『情の夫婦』(演劇カ

ド)招待券をへア一組に。

●ガットネロ「なんてったってシャンソ」(三

二文化案内)招待券をへア一組に。